COVID-19に対する学会の取り組みについて

関西医科大学　放射線科学講座 | 中村聡明　　千葉大学　画像診断・放射線腫瘍学 | 宇野　隆

In the worldwide pandemic caused by the new coronavirus (SARS-CoV-2) infection (COVID-19), cancer radiotherapy in Japan was also greatly affected. The Japanese Society for Radiation Oncology (JASTRO) launched the "Ad Hoc Committee for COVID-19 Countermeasures," led by JASTRO board members and established the "Corona Countermeasure Task Force" as its actual task force in response to the declaration of a state of emergency in April 2020, . The two organizations worked in unison to plan and operate a website and webinars to disseminate and share COVID-19 information on radiotherapy. In particular, the web seminars were held 16 times continuously, and information was disseminated from various viewpoints with the aim of ensuring stable and continuous radiotherapy even under conditions of corona spread. At the same time, the results of our treatment activities have been disclosed to the public as "Radiotherapy in the COVID-19 Pandemic: JASTRO Recommendations" and "COVID-19 National Survey".
The author has been involved in these activities as a group leader of the "Corona Countermeasure Task Force". In this paper, I will introduce JASTRO's approach to COVID-19 as radiotherapy for COVID-19 pandemic.

新型コロナウイルス感染症による全世界パンデミックにてがん放射線治療も大きな影響を受けた。日本放射線腫瘍学会（JASTRO）では、安定的・継続的な放射線治療の実施を目指し、さまざまな観点から情報発信を行なってきた。コロナ禍における放射線治療として、COVID-19に対するJASTROの取り組みについて紹介する。

はじめに

新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感染症（COVID-19）による全世界パンデミックにて、我が国のがん放射線治療も大きな影響を受けた。日本放射線腫瘍学会（JASTRO）では、2020年4月の緊急事態宣言を契機として、JASTRO理事を中心とした「COVID-19対策アドホック委員会」を立ち上げ、その実働部隊として「コロナ対策実行グループ」を発足させた。両組織が一体となり、放射線治療に関するCOVID-19情報を発信・共有するWEBサイト、WEBセミナーを企画・運営した。特にWEBセミナーは継続的に16回開催し、コロナ蔓延下でも安定的に継続的な放射線治療の実施を目指し、さまざまな観点から情報発信を行なった。同時に治療活動の成果は「COVID-19パンデミックにおける放射線治療JASTRO提言」や「COVID－19全国実態調査」として一般公開してきた。

これまで行ってきたJASTRO提言およびWEBセミナーのスライド・動画は、「JASTRO COVID-19特設サイト（**図1**）」（www.jastro-covid19.net）に掲載し、コロナ禍における放射線治療の具体的な対策・方法を詳述しているのでぜひ内容をご覧いただきたい。

筆者は「コロナ対策実行グループ」のグループリーダとしてこれら活動に関与してきた。本稿ではコロナ禍における放射線治療として、COVID-19に対するJASTROの取り組みについて紹介する。

WEBセミナー（JASTRO × COVID-19）、WEBサイト（JASTRO COVID-19特設サイト）

2020年1月から始まったわが国における新型コロナウイルスをめぐる動きも、3月上旬までは放射線治療への影響は限定的であろうと高をくくっていたところがある。しかし3月中旬からイタリア・ロンバルディア州やアメリカ・ニューヨーク州など先進諸国での医療崩壊が明らかとなり、4月7日にわが国で緊急事態宣言が発令される段になると、放射線治療の現場においても、わが国での医療崩

図1　放射線治療に関するCOVID−19特設サイト

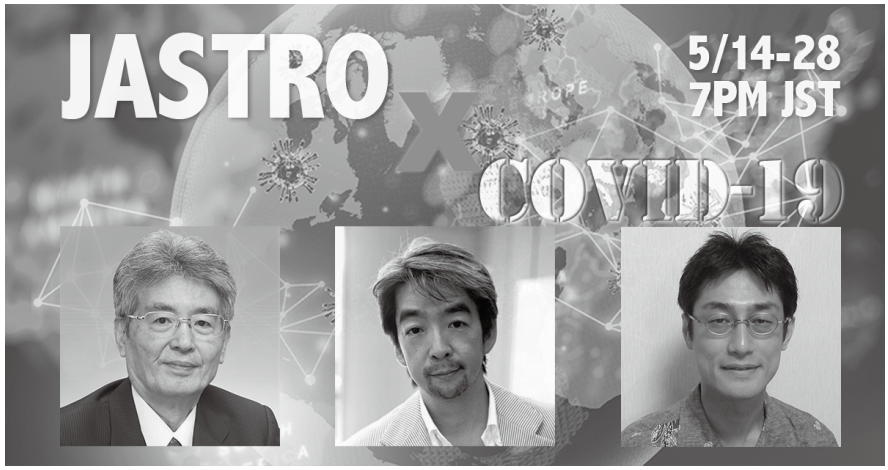

図2　JASTRO x COVID-19 敵を知る:専門家による講演シリーズ
左から平野先生、渋谷先生、高山先生

壊を想定した対策を早急に立てる必要が出てきた。

とはいうものの、4月上旬においては放射線治療のみならず、がん医療全般において、COVID-19対策についての情報は少なく、わずかにASTRO（米国放射線腫瘍学会）やNCCN（アメリカ主要がんセンターによる非営利団体）のWEBサイトにFAQを中心とした情報が掲載されている程度であった。

このため、4月15日JASTRO会員有志により、当時COVID-19対策の主舞台であった感染症指定医療機関かつ放射線治療を実施している施設などに呼びかけ「放射線治療の現場より」を題したWEBセミナー（wcb001.peatix.com）を開催した。各施設が独自に取り組んでいたCOVID-19対策を中心に発表し大変に好評であった。本セミナーをきっかけにJASTRO主導でCOVID-19情報を発信・共有する「COVID-19対策アドホック委員会」および「コロナ対策実行グループ」が組織された。

翌週4月23日、JASTRO企画として第1回目のWEBセミナー「JASTRO×COVID-19 #001」（jastrocovid19-001.peatix.com）を開始、27日にはWEBセミナーの情報をまとめた「JASTRO COVID-19特設サイト」を公開した。WEBセミナーでは寡分割照射の実際や、感染対策、BCP（事業継続計画）作成などを取り上げると共に、感染が拡大していた米国やカナダからの現場報告を行った。同時期からASCO（米国臨床腫瘍学会）やシンガポール放射線腫瘍学会のWEBセミナーも開始され、ようやくがん医療におけるCOVID−19対策の情報が世界で共有される環境が整うようになった。WEBセミナーはしばらく毎週木曜の定期開催を続け、WEBサイトにも放射線治療従事者に向けた「がん医療および放射線治療の関するFAQ」を中心に、情報の追加更新を続けた。

5月からのWEBセミナーは「JASTRO×COVID-19 #004-006 敵を知る」シリーズ（**図2**）として、免疫学（平野俊夫先生）・公衆衛生（渋谷健司先生）・感染症（高山義浩先生）のそれぞれの分野から専門家に講演いただき、放射線治療の

表1　JASTRO x COVID-19 全16回の活動内容

年	月 / 日	#	活動内容
2020	4月　7日		最初の緊急事態宣言
	4月15日	000	JASTRO 会員有志による WEB セミナー
	4月21日		JASTRO「COVID-19 対策アドホック委員会」発足
	4月23日	001	放射線治療の現場より
	4月27日		放射線治療に関する COVID-19 特設サイト公開
	4月30日	002	分野別の放射線治療 1
	5月　7日	003	分野別の放射線治療 2
	5月12日		COVID-19 パンデミックにおける放射線治療の提言 (第 1 版)
	5月14日	004	敵を知る : 免疫学の観点より　(平野俊夫先生)
	5月21日	005	敵を知る : 公衆衛生の観点より (渋谷健司先生)
	5月28日	006	敵を知る : 感染症医の観点より (高山義浩先生)
	6月　4日	007	特別編 (建築家・安藤忠雄先生)
	6月18日	008	With コロナのがん医療 : コロナ陽性患者対応
	7月　2日	009	With コロナのがん医療 : 肺がん
	7月16日	010	With コロナのがん医療 : 子宮頸がん
	8月　6日	011	With コロナのがん医療 : 乳がん
	8月20日	012	With コロナのがん医療 : 小線源治療
	9月　3日	013	With コロナのがん医療 : 頭頸部がん
2021	1月14日	014	緊急事態再宣言～備えあれば憂いなし～
	2月　4日	015	コロナ行政 × がん医療
	3月　4日	016	コロナワクチン全理解

長期的・安定的な運用の礎となる情報収集に努めた。

さいわいなことに欧米諸国でみられた感染拡大、医療崩壊は我が国で起こらず、5月末に全国の緊急事態宣言が解除された。放射線治療においても、対コロナ長期戦に備えるべく「Withコロナのがん医療」を次のテーマとし、肺がん、子宮頸がんなどの主要がん種について9月3日まで全13回の情報発信を続け、定期開催を一旦休止とした。

12月に入ってmRNA COVID-19ワクチンの高い有効性が公表され、このままコロナが終息するかと期待された。しかし本邦でのワクチン接種開始は遅れるとともに、年末から感染者数が急増し、2021年1月7日に首都圏で緊急事態再宣言となった。このため2021年1～3月にコロナ行政やコロナワクチンなどをテーマとして3回のWEBセミナーを開催した。

以上、2020年4月からの1年間に全16回のWEBセミナーを開催した（**表1、図3**）。すべてZOOMによるライブ開催であり、毎回100人以上の参加者を得た。開始当初は、主催者側も参加者側もZOOMに慣れておらず互いに手探りの開

図3　JASTRO x COVID-19 全16回の表紙写真

催であったが、ZOOMを用いることで日本各地や世界とライブ送受信が可能となり、活気あるWEBセミナーを開催することができたと言える。JASTRO会員に、ZOOM講演に対する拍手文化（8888：ぱちぱちぱちぱち）が根付いたのも、本WEBセミナーの副産物であった。

JASTRO提言、ワクチンについての提言

上述のWEBセミナーの内容をまとめる形で、またASTRO、ESTRO（欧州放射線腫瘍学会）からのRecommendationを参考にしながら、日本の感染状況も踏まえ、2020年5月12日に「COVID-19パンデミックにおける放射線治療の提言（第1版）」を公開した。5月21日には緩和照射と粒子線治療の項目、7月19日に小線源治療の項目を加え、JASTRO提言（第1. 2版）として発出した。

この提言では、低リスクの前立腺がんや乳がんなどでは放射線治療の省略または延期を考慮可能な場合があること、放射線治療を行う場合でも5〜7回照射などの寡分割照射の選択肢がありうること、また、頭頸部がん、食道がんや肺がんなどにおいても術後照射を中心に延期可能な場合があることを、具体的な総線量や分割回数とともに提示した。また個人用防護具（PPE）の装着や放射線治療部門内での時間的・空間的区分化、医療従事者が SARS-CoV-2 に感染した場合の対応についても解説した。

2021年2月には新型コロナウイルスワクチンについての提言も公表し、放射線治療の患者に対しても、ワクチン接種の利益がリスクを上回ることを説明した。

全国実態調査報告、コロナ禍における放射線治療の影響

COVID-19対策アドホック委員会では、2020年5月から2021年6月まで5回の全国実態調査アンケートを行い、コロナ禍における放射線治療の影響について報告している。それによると、患者・スタッフの感染対策は徹底が維持され、より短期間で治療完了となる寡分割照射は乳癌・緩和治療、次いで前立腺癌で多く採用されていた。放射線治療患者数に関しては、最初の緊急事態宣言直後の2020年5月では、4割の施設が例年と比較して患者数が減っていると回答していたが、2020年11月以降は減ったと回答した施設は3割となっていた。逆に2021年6月には2割弱の施設が増えたとの回答であった。これらの5回のアンケートの詳しい結果は、学会HP（jastro.or.jp）に掲載しているので、ご覧いただきたい。

リスク・コミュニケーション

最後に、COVID-19に対するJASTROの取り組みの中で最初期に起こった印象的な対応をご紹介したい。2020年4月23日（木）の朝（上述のWEBセミナー初回「JASTRO×COVID-19 #001」と同日）、女優Oさんが COVID-19肺炎で亡くなられた。その際に所属事務所より「初期の乳がんに対する手術の後に放射線治療を受けていたため免疫力が低下していた可能性がある」との談話がだされ、午前のワイドショーなどで一斉に報道された。その影響は甚大で、さっそく午後から乳癌術後照射中の患者さんを中心に、放射線治療を受けることをためらう方が続出した。

これに対してJASTROは速やかな対応をとり、学会HPを通じて翌24日（金）は医療従事者向け、25日（土）は一般向けに、早期乳癌への術後照射は免疫機能の低下をほとんどきたさないこと、生存率向上をもたらす大切な治療であり、安心して受けてもらえること、を明瞭に記載した文書を公開した。文書は日本乳癌学会HPからもリンクされ、SNSより広く拡散し、各種マスコミにて取り上げられた。筆者のSNSにても患者さんと直接の情報交換をおこなった。そして週明けの月曜は何事もなかったかのように、もはや放射線治療の中止を申し出る患者は皆無となった。

リスク・コミュニケーション（Risk Communication）とは社会を取り巻くリスクに関する正確な情報を、行政、専門家、市民などの関係主体間で共有し、相互に意思疎通を図ることをいう。今回はJASTROから、正確で分かりやすい情報を、迅速に出したことで、コロナ禍でただでさえも緊張感の高まる中、社会不安とも言える状況を一掃できたのではないかと考える。

おわりに

2020年4月からのCOVID-19に対するJASTROの取り組みについて紹介した。いうまでもなく、「COVID-19対策アドホック委員会」、「コロナ対策実行グループ」および講演・助言いただいた多くのみなさまの献身的なご協力・ご尽力の賜物である。この場を借りて、改めて御礼申し上げたい。

他の学会に先駆け、学会全体として対コロナ活動をWEB中心のオンラインで行うことができたのは、コロナ禍以前からオンサイトで「医学生・研修医セミナー」や「教育セミナー」などで、若手・中堅・ベテランが密に活動する素地があったことが大きい。コロナ禍以降の次なる危機に備えるべく、学会全体でオンサイト/オンラインとも活発な活動を維持していきたい。